

革新力

光。人の心を整え、地「易きになじまず難き球の未来さえも変えてにつく」。創業の精神

いく。ガラスは「透明は、脈々と続くAGCな板」から、エネルギーの事業の原点――を生み出し、情報をだ。

1950年代から、

と進化している。その
最前線に立つのが、A
GC（旧旭硝子）だ。

明治の終わり、日本

一枚のガラスが社会を大きく変える AGC

の板ガラスは輸入頼み ทีวีのブラウン管用
だった。様々な企業が ガラスや自動車ガラス

製造をスタート。高度 温室効果ガス

い事業。「日本の街を、経済成長の影で公害問
日本のガラスで輝かせ 題が深刻化する中、1

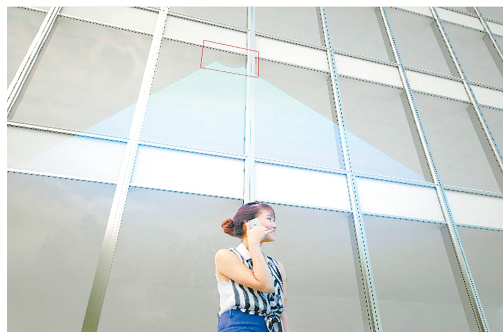
975年、苛性ソーダのだ。AGCは、省工を両立させた。

若い技術者がいた。創業者の岩崎俊彌氏だ。

0年代には代替フロンに加え、既存建物にも後〔Energy Benefit〕」

式会社を設立。兵庫県「AK225」、20 付けでできる「アトッチ」の発想だ。「高機能力

909年、ついに国産生み出した。



上はガラスアンテナによる電波放出のイメージ。下は共用アンテナWAVE ATTOCH。画像はAGC提供

「発電部位」に変わる。発電ガラスルーフを組込むことで、車そのものがエネルギーを生み出す――。「創エネ」を都市機能に組み込む取り組みも進む。■車が通信するモビリティに

同時にデザインする

年培った高い技術力が顧客ニーズに強みだ。顧客ニーズに基づいた技能開発力とグローバルな製造・供給体制もある。

製造プロセスの脱炭素化にも挑む。ガラス製造の要である溶解窯

自動運転とEV化が「インテリジェンス」の燃料を半分電化する。残りは酸素とガス進む自動車業界でも、材」だ。

ガラスは主役の一つ ■窓を通信基地化するの混合燃焼でまかなう
だ。AGCは、LiD ガラスアンテナ ハイブリッド窓を実証
ARやカメラなど自動 一枚のガラスを窓に 実験中だ。さらに、建

貼るだけで屋外を5G建築物の解体で発生するC移動通信エリア化する。そんな画期的な製品に戻す。水平リサイ

品を開発した。ガラス「WAVE」や、使用済み太陽光パネルのカバー「アンテナ」

「TOCH」だ。ラスを再利用する技術も確立。その取り組み

一体型ミラー「ミラリ」は大阪・関西万博で展
「ア」は、鮮明な映像を示された。

表現する。デジタルサイネージへの利用など新しい表現の可能性を形にしている。

AGCのもう一つのCは、「透明な素材で主力が、半導体材料事業未来をデザインする企業だ。ガラス・化学・業」として進化を続けセラミックス分野で長けている。